板垣李光人 / 中村倫也
天野宏郷　藤井雄太　茂木たかまさ　三上瑛士

原作：武田一義「ペリリュー ―楽園のゲルニカ―」（白泉社・ヤングアニマルコミックス）
監督：久慈悟郎　脚本：西村ジュンジ・武田一義
キャラクターデザイン・総作画監督：中森良治　プロップデザイン：岩畑翔一 鈴木典孝　メカニックデザイン：神菊薫
美術設定：中島美佳 猿谷勝己（スタジオMAO）　コンセプトボード：益城貴昌・竹田悠介（Bamboo）　美術監督：岩谷邦子 加藤浩・坂上裕文（ととにゃん）
色彩設計：渡辺亜紀・長谷川一美（スタジオ・トイズ）　撮影監督：五十嵐慎一（スタジオトゥインクル）
3DCG監督：中野哲也（GEMBA）　高橋慎一郎（STUDIO カチューシャ）　編集：小島俊彦（同安プロモーション）　考証：鈴木貴昭
音響監督：横田知加子　音響制作：HALF H・P STUDIO
音楽：川井憲次
制作：シンエイ動画 × 冨嶽　配給：東映

〈1万人中、最後まで生き残ったのはわずか34人の激戦 ――〉
終戦80年に届ける、史実に基づく戦火の友情物語

12.5
-FRI-

©武田一義・白泉社／2025「ペリリュー ―楽園のゲルニカ―」製作委員会

君の生きた証を伝えたい――

壮絶な世界で紡がれる戦火の友情物語が誕生
戦争マンガの新たなる金字塔が、劇場アニメーションとしてついに映画化！

ストーリー

仲間の最期を「勇姿」として手紙に書き記す功績係（こうせきがかり）――彼が本当に見たものとは？

太平洋戦争末期の昭和19年、南国の美しい島・ペリリュー島。そこに、21歳の日本兵士・田丸はいた。漫画家志望の田丸は、その才を買われ、特別な任務を命じられる。それは亡くなった仲間の最期の勇姿を遺族に向けて書き記す「功績係」という仕事だった。
9月15日、米軍におけるペリリュー島攻撃が始まる。襲いかかるのは4万人以上の米軍の精鋭たち。対する日本軍は1万人。繰り返される砲爆撃に鳴りやまない銃声、脳裏にこびりついて離れない兵士たちの悲痛な叫び。隣にいた仲間が一瞬で亡くなり、いつ死ぬかわからない極限状況の中で耐えがたい飢えや渇き、伝染病にも襲われる。日本軍は次第に追い詰められ、玉砕すらも禁じられ、苦し紛れの時間稼ぎで満身創痍のまま持久戦を強いられてゆく――。
田丸は仲間の死を、時に嘘を交えて美談に仕立てる。正しいこと、それが何か分からないまま…。そんな彼の支えとなったのは、同期ながら頼れる上等兵・吉敷だった。2人は共に励ましあい、苦悩を分かち合いながら、特別な絆を育んでいく。
一人一人それぞれに生活があり、家族がいた。誰一人、死にたくなどなかった。ただ、愛する者たちの元へ帰りたかった。
最後まで生き残った日本兵はわずか34人。過酷で残酷な世界でなんとか懸命に生きようとした田丸と吉敷。若き兵士2人が狂気の戦場で見たものとは――。

登場人物

【田丸均（21才）】

CV. 板垣李光人

漫画家志望の兵士。心優しく大人しい性格。功績係に任命される。

【吉敷佳助（21才）】

CV. 中村倫也

勇猛で頼れる上等兵。銃の扱いが上手。

映画の最新情報をチェック！

【公式HP】 https://peleliu-movie.jp/

【公式SNS】 @peleliu_movie

原作試し読み ▶▶▶

忘れられた激戦、「ペリリュー島の戦い」とは

太平洋戦争末期の昭和19年9月15日から約2か月半繰り広げられたパラオ・ペリリュー島での戦い。日本軍にとって玉砕を禁じられ持久戦で時間稼ぎをする方針転換がなされた最初の戦いとなり、その方針は硫黄島へも引き継がれた。日本軍1万人中最後まで生き残った兵士はわずか34人。米軍も1600人以上が死亡したとされる。守備の中核を担った水戸第二連隊はその9割がペリリュー島で亡くなっている。その犠牲の多さと過酷さに対してほとんど語られることのない「忘れられた戦い」となり、2025年現在でも千を超える日本兵の遺骨が収容されず島に眠っている。